

# 学級数の多い学校の現状と課題

## 1. 良い点

- ・児童生徒相互のふれあいや協力、認め合う機会等が多く、その中で社会性や協調性等を育成しやすい。
- ・児童生徒どうしの切磋琢磨する機会が多い。
- ・運動会や発表会、クラブ活動などの学校行事が活発になりやすい。
- ・教職員数が多く、児童にとって多くの先生と接する機会に恵まれる。
- ・教育内容や指導方法の研究、研修を通して、教職員相互に学びあう機会が多い。
- ・調和のとれた校務分掌が確立でき、教職員1人の負担も緩和されやすい。

## 2. 課題

### ① 特別教室等の使用において制約を受ける

- ・図書室、コンピューター室などの特別教室が十分に割り当てられず、学習指導計画において制約を受ける。
- ・体育館、音楽室、理科室などの使用においては、他学級との合同授業や時間割変更、教室の代用などによる対応をせざるを得ない。
- ・予備の普通教室がないため、少人数指導などの学習計画を立てることが困難である。

### ② 1人あたりの運動場面積が狭い

- ・運動場が過密状態にあり、休み時間には学年間の調整を行っているが、ボール遊び等において制約を受ける。
- ・体育の授業や運動会の練習などにおいて、時間や場所が制約される。
- ・特に運動会では、児童生徒による入場行進ができなかったり、保護者の参観スペースが確保できないなどの制約を受ける。

### ③その他、学校施設面において制約を受ける

- ・児童生徒 1 人あたりの床面積が狭く、学年単位での学習活動等において制約を受ける。
- ・児童生徒 1 人あたりの便器数が少なく、使用上制約を受ける。
- ・教職員数に比べて職員室が狭く、業務上制約を受ける。
- ・女子職員用トイレが少なく、使用上支障をきたしており、女子職員の健康を害している。

### ④学校行事等において制約を受ける

- ・小学校の水泳指導では、シャワー等の指導に時間がかかり、水泳指導の時間が短くなる。また、学年児童が一度に入水できないので、1 人あたりの指導時間がさらに短くなる。
- ・小学校のクラブ活動では、活動場所がなく、4 年生は 5、6 年生と別に活動している。また、運動クラブでは、雨天時に活動場所が確保できない。
- ・校外学習をはじめとする学校行事において、集合や準備、実施等に多くの時間がかかる。特に、宿泊学習では分宿になったり、遠足等においては電車に分乗せざるを得ず、学習時間を十分に確保することができない。

### ⑤きめ細かな指導を行いにくい

- ・児童生徒数が多いため、1 人ひとりの児童生徒にきめ細かな指導を行いにくい。